

底魚資源調査（夏季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚資源の動向を把握するため、平成 15 年から調査船いばらき丸 (179t) により年 2 回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深 75～450m までの海域、合計 32 点において、15～30 分間（速力 2.5 ノット）網を曳き、得られたデータから底魚類の現存量を推定しています。今回は平成 29 年 7～8 月に実施した夏季調査の結果について報告します。

1. 主要な底魚類の推定現存量の推移

表 1 は、平成 21 年から今回までの推定現存量です。過去 5 年間の傾向から、主要な底魚類のうちユメカサゴ（ノドグロ）、ムシガレイ、ヤナギムシガレイなど 9 種が増加傾向、ババガレイ（ナメタ）、アオメエソ（メヒカリ）など 5 種が横ばい、ヤナギダコ、マダラの 2 種が減少傾向と判断しました。調査対象とした 16 魚種のうち、増加傾向の魚種は昨年同時期の 7 種から 9 種になり、全体的に資源は上向き傾向となりました。

表 1 推定現存量の推移（夏季トロール調査）

（単位：トン）

| 魚種/年 | H21 | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | 傾向 |
|-------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| マコガレイ(本マコ) | 19 | 18 | 30 | 28 | 5 | 5 | 16 | 29 | 26 | 増加 |
| マガレイ(沖マコ) | 12 | 23 | 44 | 37 | 7 | 11 | 23 | 20 | 16 | 増加 |
| ヤナギムシガレイ | 34 | 36 | 31 | 27 | 45 | 48 | 52 | 127 | 71 | 増加 |
| ババガレイ(ナメタ) | 42 | 48 | 38 | 91 | 77 | 71 | 54 | 96 | 79 | 横ばい |
| ムシガレイ | 19 | 6 | 22 | 20 | 15 | 17 | 31 | 135 | 155 | 増加 |
| アカガレイ | 8 | 23 | 22 | 65 | 4 | 5 | 5 | 109 | 29 | 増加 |
| ミギガレイ(ニクモチ) | 65 | 50 | 77 | 83 | 197 | 107 | 65 | 161 | 111 | 横ばい |
| ヤナギダコ(水ダコ) | 102 | 339 | 245 | 267 | 313 | 213 | 250 | 199 | 217 | 減少 |
| アオメエソ(メヒカリ) | 48 | 8 | 23 | 27 | 409 | 69 | 48 | 312 | 193 | 横ばい |
| マダラ | 79 | 34 | 7 | 724 | 166 | 179 | 144 | 142 | 16 | 減少 |
| キチジ | 61 | 58 | 17 | 50 | 21 | 10 | 15 | 31 | 64 | 増加 |
| ズワイガニ(本ズワイ) | 103 | 141 | 149 | 59 | 40 | 73 | 58 | 105 | 111 | 増加 |
| ベニズワイガニ | 66 | 118 | 88 | 82 | 1 | 0 | 1 | 1 | 12 | 横ばい |
| トラザメ(ネコザメ) | 3,785 | 3,053 | 1,426 | 604 | 1,616 | 777 | 1,119 | 960 | 1,603 | 増加 |
| ユメカサゴ(ノドグロ) | | | | | 22 | 29 | 26 | 32 | 111 | 増加 |
| テナガダラ(トウジン) | | | | | 977 | 1,388 | 6,559 | 1,126 | 907 | 横ばい |

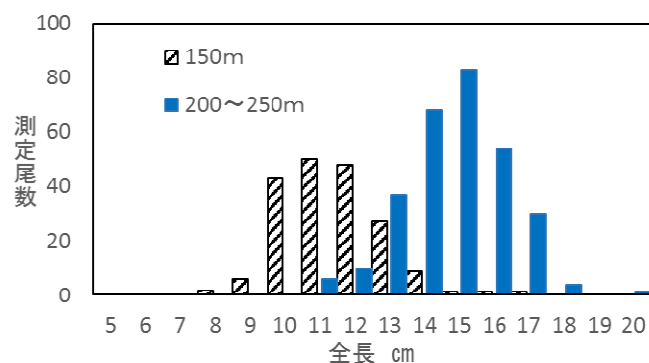
2. 今回の注目魚種

今回の調査では、水深 80～100m の水深帯でヤリイカの小型個体（胴長 5～8cm, 今年生まれ）が多く確認されました（図 1）。

平成 29 年 4～5 月頃に底曳網漁業のヤリイカ漁場が県南部海域に形成されましたが、その時期に産卵されたものがふ化・成長したもののと思われます。これらは今後成長して大きくなり、体重も増加します。現段階でサイズの小さいヤリイカはできるだけ取り控えて、成長を待つことが資源の有効利用につながると考えられます。



図 1 採取されたヤリイカの小型個体（水深 80～100m）



また、前漁期で漁獲量が 513 トン（平成 27 年漁期 151 トン）と豊漁だったメヒカリは、推定現存量は昨年（312 トン）より下がったものの 193 トンと 100 トン以上の高い値となっています。水深別には沖合 200～250 m で採取したものが全長 13～18 cm と灘側（水深 150m）よりも約 5 cm 大きく、また昨年同期と比べても大型個体が多くなっています。良好な漁模様が持続するためには小型個体の補給が必要ですので、今後の水揚状況を注視していきたいと思います。

図 2 メヒカリの全長（水深別の比較）

[次回予告] H29.10.24 発行の「水産の窓」は、「貝毒調査結果について」を予定しています。